

## “オープンレンジ”の誕生

次はオープンレンジのお話に移りたいと思います。今オープンレンジをお使いの方は非常に多いと思うんですが、これはオープンとレンジ、2つが同居しています。“レンジ”が何かというと、今はほとんどの方が電子レンジだと思っていらっしゃると思うのですが、本来レンジという言葉は、火口がいくつか並んでいて下にオープンが付いている、そういうものだったんですね。それが電子レンジが開発されましたときに、日本ではどういうわけか“電子レンジ”という名前が付きました。外国語では“マイクロウェーブオープン”というふうに言われていますが、電子レンジって名前が付いたものですから、いつの間にか電子をとって“レンジ”って言うようなっちゃったんですね。電子レンジは、昭和30年代の終わり頃か40年代にかけて普及してきたわけですが、その頃の日本の食生活というのは非常に西欧化が進んだ時代で、もともとオープンというのは西洋の加熱機器であって、日本に古来からあるものではなかったんです。それが鶏のもも焼きを作るとか、ケーキを作るとか、クッキーを作るとか、西欧化した食生活が入って来たときに、オープンを使う家庭が段々と増えてきた。そして電気式のオープンだとかガス式のオープンだとかがだんだんと普及してまいりました。そのときに電子レンジも普及してまいりましたが、大きな箱を2つも置けるほど日本の台所は広くないですから、だから電気メーカーさん、機器メーカーさんが考えて、その性能をひとつの機械の中に入れたんですね。最初は大変技術的に難しかったというふうに聞いております。私が一番最初に使ったオープンとレンジの兼用型というのは、電子レンジを使うとき、オープン用ヒーターを全部引き抜くんですね。引き抜いてから電子レンジを使う。今度オープンを使うときは、それをちゃんとはめ込まないと使えない。金属が中に入っていると、マグネトロンが壊れるからいけないという話だったんですけど、それを技術開発で一緒にすることができるようになってオープン機能と電子レンジ機能が同居するような、そういう箱が出来ました。そしてオープンレンジと言われる名前になったのですが、そうなるオープンと電子レンジをはっきり区別できなくなっている方も結構多くいらっしゃいます。ですが、これは全然違いますので別物だと分けて考えていただかなくてははいけません。